

★土砂災害避難促進アクションプログラム

避難行動に影響を与える要因（※社会調査）		優先順位	対応分類	対応方針	対応策	アクションプログラム	関係主体（案）				
社会調査（概念）	社会調査（下位概念）						大分県	市町村	住民	関係機関	
災害スキーマ ※災害時の状況理解や適切な行為のための型（構造化された知識）	防災リテラシー ※災害の脅威を理解し、必要な備えをして、いざというときに適切な行動をとっていける力	1	1.地域の防災リテラシーの向上	1-1 脅威の理解	土砂災害及び防災に関する知識の取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害防災講座等の開催（出前講座・砂防教室）</li> <li>※小中学校向けの土砂災害を対象とした教材の作成・活用</li> <li>※DVD（災害履歴、土砂災害の現象及び被災映像、被災者の声等）の作成・活用</li> <li>※「防災アドバイザー派遣制度」の周知・促進</li> </ul>	○	○	○		
					自宅周辺の危険箇所の把握 避難場所・経路の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害警戒区域の指定及び周知</li> <li>土砂災害ハザードマップの作成</li> <li>土砂災害警戒区域看板を現地に設置（※土石流危険渓流等の周知看板の更新）</li> </ul>	○				
				1-2 日頃の備え	日頃の備え（自助・共助）	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の備え（自助・共助）を促進する防災学習等の開催</li> <li>※緊急避難グッズ（懐中電灯、ラジオ等）や非常食を日頃から準備『自分の命は自分で守る』</li> <li>※日頃から共に助けあう連帯感の育成『みんなの命はみんなを守る』</li> </ul>	○	○	○		
				1-3 いざというときに適切な行動をとっていける力	地域に応じた避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害ハザードマップやタイムラインを活用した避難訓練の実施</li> <li>※タイムラインとは、自主防災組織等において『いつ』『誰が』『何を』行うかを時系列に整理した行動計画</li> <li>児童参加型の土砂災害を対象とした防災訓練（※地図やタイムラインを活用した机上訓練等）の実施</li> <li>自主防災組織等が実施する防災（避難）訓練等に係る費用に対する助成</li> </ul>	○	○	○		
	平時から避難時の行動想定				<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育等を通じて、避難勧告等の空振り覚悟で逃げる習慣づくり</li> <li>地区タイムライン、マイタイムラインの雛形作成・活用</li> <li>※地区タイムラインとは、自主防災組織等において『いつ』『誰が※役割分担』『何を』行うかを時系列に整理した行動計画</li> </ul>	○		○			
過去の災害経験	1-4 過去の災害経験	災害履歴や災害経験の伝承	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災イメージを持てるように実例をわかりやすく整理し、災害リスクを啓発する。</li> <li>※DVD（災害履歴、土砂災害の現象及び被災映像、被災者の声等）の作成・活用</li> </ul>	○		○					
周囲の状況による促進・阻害	促進 共助のしやすさ	2	2.地域コミュニティにおける共助の推進	2-1 周囲の手助け	避難のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時避難行動要支援者への早期避難の意識啓発</li> <li>※自力避難可能な方に早期避難を促す体制構築</li> <li>個別計画の作成促進</li> <li>※自力避難困難な方の個別計画の早期作成支援</li> </ul>			○	○	
				地域コミュニティの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練、防災教育、防災イベント等の実施</li> </ul>	○	○	○			
	阻害 避難不能 避難所生活の懸念		2-2 周囲への声掛け	避難の旗振り役（※防災リーダー）の育成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災リーダーを対象に土砂災害に関するスキルアップ講座</li> <li>※地域の防災リーダーとは、地域の防災を中心的に担っている人（防災士、消防団等）</li> <li>自治会等と防災士との連携に向けた支援</li> </ul>	○	○	○			
			3-1 適切な避難場所	災害の切迫性に応じた避難（※指定避難所以外の「近隣の安全な場所」の確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時避難場所等を土砂災害ハザードマップに記載</li> </ul>		○				
3-2 避難所の生活環境	避難所の生活環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>段ボールベットやマット等の備蓄</li> <li>要配慮者が安心して避難できるよう受入れ環境の充実</li> <li>※福祉避難所の拡充と福祉避難スペースの設置促進、災害派遣福祉チームの機能強化</li> </ul>	○								
災害情報	手がかり 情報源 情報媒体	3	4.住民の避難行動につながる災害情報の提供	4-1 身近な危険情報の取得	前兆現象の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育等を通じて、前兆現象を捉える意識づくり</li> <li>※前兆現象（腐った土の臭い、小石がバラバラ落ちる等）等</li> </ul>	○	○	○		
				4-2 信頼できる人からの情報の取得	近所の人からの声掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>共助を促進する防災学習等の開催</li> <li>※日頃から共に助けあう連帯感の育成『みんなの命はみんなを守る』</li> </ul>	○	○	○		
				4-3 確実な情報の伝達	情報伝達手段の多重化	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信ツールの多重化</li> <li>※テレビとの連携（土砂災害危険度情報のデータ放送による配信）</li> <li>※「県民安全・安心メール」の登録者に対して避難情報や気象警報等の配信</li> <li>※県民向け「防災アプリ」を運用</li> </ul>	○	○			
	警報のメッセージ			4-4 避難行動につながる情報の配信	とるべき避難行動が理解できる情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域単位（例：小学校区や自治会単位）での避難勧告等の発令</li> <li>※避難勧告支援システムの活用</li> <li>※気象台一市町村間ホットラインの能動的な活用（気象台から市町村への情報提供）</li> <li>避難情報発令時における具体的な伝達（※どのような災害、どの地域に、どのような避難行動をとるべきか等）</li> <li>わかりやすい情報発信方法の工夫</li> <li>※避難情報発令時にサイレンを活用等</li> </ul>	○	○		○	
				外国人への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人にも理解できる情報提供の多言語対策の実現</li> </ul>	○					
4-5 情報の精度向上・充実	土砂災害関連情報の精度向上・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害警戒情報の精度向上</li> <li>土砂災害危険度情報の充実</li> <li>※5kmメッシュ危険度判定を1kmメッシュ危険度判定に細分化</li> </ul>	○			○					